

情報の管理と流通

第1講 「デジタルアーカイブの歴史とその課題」

久世均
(岐阜女子大学・教授)

「デジタルアーカイブの歴史とその課題」

【目 的】

デジタルアーカイブの日本における歴史と本学のデジタルアーカイブの変遷を比較しながら、どのような点が明らかになり、新たにどのような課題が創出されたのかについて考える。

【学習到達目標】

- a. デジタルアーカイブの歴史について説明できる。
- b. 知識基盤社会におけるデジタルアーカイブの必要性について事例をあげて説明できる。

「知識基盤社会とデジタルアーカイブ」

1. 知識基盤社会とデジタルアーカイブ

- ・「デジタルアーカイブ」という和製英語が1994年頃誕生 ← 月尾嘉男氏(東京大学名誉教授)
- ・「有形・無形の文化遺産をデジタル映像の形で記録し、その情報をデータベース化して保管し、随時閲覧・鑑賞、情報ネットワークを利用して情報発信」というデジタルアーカイブ構想

デジタル・アーカイブ構想 (Digital Archives)



「知識基盤社会とデジタルアーカイブ」

知識基盤社会

「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」である。

これからすると、「**知識基盤社会**」とは、

「知識を生み出し、加工し、使いこなし、人々に伝えて、みんなで共有することによって動いていく社会」

「デジタルアーカイブの取り組み」

- 平成16年～平成18年度：文化創造学部は文部科学省の“現代的教育ニーズ取組支援プログラム”（現代GP）採択され、デジタルアーカイブに必要な文化・処理の知識・技能等を育成する国内初の「**デジタルアーキビストの養成**」のカリキュラムを開発
- 平成18年：デジタルアーキビスト資格設定の要望が出され、特定非営利活動法人「**日本デジタルアーキビスト資格認定機構**」が設置
- 平成19～21年度：文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」として、現代GPの成果を、社会人を対象として応用することを目的に「**社会人のためのデジタルアーキビスト教育プログラム**」に採択
- 平成20～22年度：文部科学省のGPに選定された組織的な大学院教育改革推進プログラム（大学院GP）「**実践力のある上級デジタルアーキビスト育成**」では、大学院生の“上級デジタルアーキビスト”の教育プログラムの開発や実践力育成

「デジタルアーカイブの発展」

- **2000年**からデジタルアーカイブの研究をはじめ、現在まで下記のような研究開発をしながら、**約20万件の地域文化資源（文化活動、観光、衣食住、産業、教育等の資料）の整理・保管・流通**を行い、全国的な利用を図ってきた。
- デジタルアーカイブの**メディア環境、収集・記録、著作権・プライバシー等の選定評価項目、メタデータ、シソーラス、保管領域、長期・短期保管、利用など一連の理論的体系化および実践方法の研究**をし、広く実用化を図った。
(~**2012年**)
- 文部科学省の現代GP関係で大学、社会人、大学院の三分野（**2004年~2010年**）で採択され、人材養成の教育体系を確立し、**全国でデジタルアーキビストの資格取得者を多数養成**している。デジタルアーキビスト資格については、平成26年度から大幅に希望者が増え、デジタルアーキビスト資格の社会的な価値が増大していることがわかる。
- **2006年**から**知的創造サイクルの研究**をはじめ、**2011年**には修学旅行用冊子を開発し、約6万人が利用。また、**2013年**には教育における「知の増殖型サイクル」の基本システムを研究し、それを用いて2015年には沖縄県の学力向上を行った。

「デジタルアーカイブの発展」

- 2015年：デジタルアーカイブサミット2015
文化資源戦略会議では、アーカイブ立国宣言
2020年に向けて「**デジタルアーカイブ整備基本法（仮）**」
- 2017年5月：国立国会図書館、国立国語研究所、国立国文学研究資料館、
国立情報学研究所、京都大学、慶応大学、早稲田大学、
東京国立博物館等とで発足した「**デジタルアーカイブ学会**」
- 2017年11月：本学で平成29年度から5年間 文部科学省
私立大学研究ブランディング事業 採択

「**地域資源デジタルアーカイブ**」による知の拠点形成のための**基盤整備事業**」

研究課題

デジタルアーカイブの歴史をまとめて、何が変化して何が課題になっているかを話し合ってみなさい。

参考資料：デジタルアーカイブの歴史

情報の管理と流通

第1講 「デジタルアーカイブの歴史とその課題」

久世均
(岐阜女子大学・教授)